

## シンポジウムS2-5 次世代につなげるHBO～大学病院での教育 のあり方

土井智章<sup>1)</sup> 三宅喬人<sup>1)</sup> 上谷 遼<sup>1)</sup>  
小倉真治<sup>1)</sup> 豊田 泉<sup>2)</sup>

- 1) 岐阜大学医学部附属病院 高度救命救急センター  
2) 岐阜県総合医療センター 救命救急センター 救急科

### 【はじめに】

岐阜大学医学部附属病院には高気圧酸素治療 (Hyperbaric Oxygen Therapy: HBO) は第一種装置 (KHO-2000:川崎エンジニアリング社製) が高度救命救急センター病棟内にあり、高度救命救急センター医師が中心となり、臨床工学技士とともに日々の治療および管理を行っている。

また当院は医学部の附属病院であるため、医学生および大学院生に対する教育・指導の責務があるのと同時に研修医をはじめ、医師を教育し、高気圧医学専門医を育成していく責任がある。

当院での医学生、大学院生、医師に対するHBO教育の現状と課題を報告する。

### 【岐阜大学医学部附属病院の現状】

2004年6月に当院が新病院へ移転した当初は、高気圧医学専門医1名で診療をスタートしたのちに徐々に専門医を増やし、一時期は専門医3名体制で運営をしていた時期もあったが、徐々に人が減っていき、現在(2021年4月～)は専門医1名体制となっている。診療継続および教育体制の維持は風前の灯といえる状況である。

### 【医学生に対する教育】

医学生に対するHBO教育は岐阜大学のシラバス(教育指針)にはHBOに関する記載は無く、教育義務はないのが現状である。

医学生に対するHBO教育が行われていない現状は問題と考え、5年生の臨床実習時に救急科を回って来る学生を対象に専門医個人で非公式レクチャーを開始した。スライドを用いた約20分のミニレクチャーである。専門医1名で行っているため、高い教育目標を持たず、学生にHBOの存在を知ってもらう程度にとどめているのが、奏功しているのか、概ね学生には好評で

ある。

### 【大学院生に対する教育】

HBOはエビデンスレベルが決して高くはないので、臨床研究のみならず、基礎研究が重要である。当科には動物実験用の高気圧酸素治療のタンクがあり、また当科には研究専任のスタッフもいるため、教育環境が整っている施設といえる。そのため、大学院生にHBOで学位を取ってもらうことができる施設であるが、あまり知られていない。HBOで学位を取りたいという人がいないのが現実である。

基礎研究が臨床につながり、臨床の疑問が基礎研究につながることから、岐阜大学は基礎研究も重要視して、基礎と研究の二刀流で今後は進んでいきたい。現状は、基礎研究と臨床を継続して、「結果を残す」ことでエビデンスレベルを高めることが、すべての教育環境を改善する最善の手立てと考えている。

### 【医師に対する教育】

専門医育成は最大の課題であり、今のところ増える見込みがない。現状は専門医1名でもなんとか臨床現場が運営出来るように、救急科の医局員を教育し、マニュアル作成を行っている。臨床医に対するHBO教育の道のりは長く険しい。

### 【結語】

次世代の育成とは「教育そのもの」であり、次世代のHBOを担う人材育成には医学生からの教育から始まり、研修医・大学院生・臨床医に至るまでシームレスな教育が必須であると考え。シームレスな教育には基礎と臨床の二刀流でエビデンスレベルを上げていく必要があり、今後は仲間を増やしながらか教育活動を継続・拡大していきたい。